

この子らと

令和7年12月号

命輝く子ども



内科検診

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

故郷は遠きにありて思うもの 室尾犀星

ふるさは遠きにありて思うもの
そして悲しくうたうもの
ひとり都の夕暮れに
ふるさを思い 涙ぐむ
そのころをもて
遠き都に帰らばや
遠き都に帰らばや



年末・年始は子どもたちの「心のふるさと」がつくられる風物詩が多くあります。

年末になりますとお正月の準備にとりかかります。大掃除、餅つき、門松、鏡餅正月飾り、わたくしが小さい頃は、お清めの塩に見立てて庭に白砂(シラスをまいていました。

いよいよ大晦日、紅白歌合戦、**年越しそば**、除夜の鐘を聴いて新年を迎えます。



年越しそば(無病息災)

錦江湾に浮かぶ桜島の裾野からの初日の出に手を合わせて、新年の幸せ「**今年こそは良いことがありますように**」等と願います。おせち料理、お雑煮を食してから神社やお寺にお参りに出かけたり、正月遊びをしたりします。



連綿と引き継がれてきた年末・年始の行事等はそれぞれ意味をもっています。子どもたちは、年末・年始の行事等を経験したり、由来を聞いたりすることで遠きにありて思う「心のふるさと」を培っていくと思います。

心のふるさは、様々な苦難を乗り越えていく力となります。

「荷物もち、妻の後行く師走かな」

「せわしくも、心浮きたつ街師走」



中央駅東口「朝市」



除夜の鐘(西本願寺)

子どもの可能性を信じて

全ての教育・保育は「子ども一人一人の可能性」を信じることから始まります。

「ピグマリオン効果」とは、かつてハーバード大学が「可能性」を仮説に小学校である実験を行いました。担任の先生に言いました。「これから、あなたのクラスで学力が伸びる子どもを探し出すテストをします。」と。その後、担任の先生にテスト結果が渡されました。「あなたのクラスのA,B,C,D・・・の子どもたちは、学力が必ず伸びます。」と説明がありました。

必ず伸びると選ばれた子どもたちは、まったくランダム(でたらめに)に抽出した子どもたちでした。

必ず伸びる子どもたちと信じた担任により、ランダム(でたらめに)に選ばれた子どもたちの学力は確実に向上しました。

実験を通した明らかになったことは、子どもの可能性はすべての子にも存在すること、教師はすべての子どもが可能性のあることを信じることです。

乳幼児の一人一人も同じです。教師が一人一人の可能性を心の底から信じてかかわることで子どもたちの可能性は必ず花開きます。

このことを「ピグマリオン効果」と言います。

本園の職員は、12月20日の発表会で子どもたち一人一人の可能性を引き出してくれると信じています。一人一人の子どもの可能性を信じて深い教育愛をもって取り組んでくれていますので。

今年一年、本園・職員を支え励ましてくださり、誠にありがとうございました。(職員一同)



来年は午年です。馬は、前向きなエネルギー、成功等のシンボルとして慕われています。馬にあやかり、子ども一人一人を真ん中にして、夢に向かって突き進んでまいりましょう。